

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2002-234819
(P2002-234819A)

(43) 公開日 平成14年8月23日 (2002.8.23)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テーマコード* (参考)
A 6 1 K 7/032		A 6 1 K 7/032	4 C 0 8 3

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願2001-31868(P2001-31868)

(22) 出願日 平成13年2月8日 (2001.2.8)

(71) 出願人 000143862

株式会社コーセー

東京都中央区日本橋3丁目6番2号

(72) 発明者 奥山 雅樹

東京都北区栄町48番18号 株式会社コーセー
一研究本部内

(72) 発明者 小杉 昌輝

東京都北区栄町48番18号 株式会社コーセー
一研究本部内

(72) 発明者 津原 一寛

東京都北区栄町48番18号 株式会社コーセー
一研究本部内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 マスカラ用下地化粧料

(57) 【要約】

【課題】マスカラを塗布する前に、睫に塗布するマスカラ用下地化粧料であり、油溶性樹脂と水性成分及び無水ケイ酸を含有するマスカラ用下地化粧料に関し、更に詳しくは、マスカラの機能である、睫のボリュームアップ効果やカール効果等の化粧効果及びその化粧持続性を向上させるマスカラ用下地化粧料を提供する。

【解決手段】成分 (a) 油溶性樹脂、成分 (b) 水性成分、成分 (c) 無水ケイ酸を含有するマスカラ用下地化粧料。また、成分 (a) を1～30質量%、成分 (b) を0.1～10質量%、及び成分 (c) を0.1～10質量%含有する前記マスカラ用下地化粧料、及び前記マスカラ用下地化粧料が油性型であるマスカラ用下地化粧料。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 次の成分(a)～(c)；

成分(a) 油溶性樹脂

成分(b) 水性成分

成分(c) 無水ケイ酸

を含有することを特徴とするマスカラ用下地化粧料。

【請求項2】 成分(a)を1～30質量%、成分(b)を0.1～10質量%、及び成分(c)を0.1～10質量%含有することを特徴とする請求項1記載のマスカラ用下地化粧料。

【請求項3】 マスカラ用下地化粧料が油性型であることを特徴とする請求項1又は2記載のマスカラ用下地化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、マスカラを塗布する前に、睫に塗布するマスカラ用下地化粧料であり、油溶性樹脂と水性成分及び無水ケイ酸を含有するマスカラ用下地化粧料に関し、更に詳しくは、マスカラの機能である、睫のボリュームアップ効果やカール効果等の化粧効果及びその化粧持続性を向上させるマスカラ用下地化粧料に関するものである。

【0002】

【従来の技術】マスカラは、睫を上にかールすることや睫を太く、長く見せることで、目元を美しく際立たせるといった化粧効果が重要な基本品質となる化粧料である。このため、この基本品質を向上させるために、種々の原料の配合が検討されてきた。具体的には、ワックスの配合量を増加させることで、睫への密着性を高め、睫を太く目立たせたり、皮膜形成剤を使用することで、睫を上にかールさせる効果を高める等の技術が用いられていた。更に、ナイロン等の繊維を配合することにより、睫を長くみせ、目元を際立たせる技術も用いられていた。更に、外相が油相である油性剤型のマスカラは、より高い化粧持続性を演出することができると知られている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、マスカラにワックス及び皮膜形成剤を高濃度配合することで、睫を太くみせたり、睫を上にかールし目元を際立たせる等の化粧効果はある程度高められるが、マスカラ自体が硬くなるため、伸び広がりが悪くなり、化粧膜の均一性が低下する場合があった。また、マスカラにナイロン繊維を配合することで、睫を長くみせ、目元を際立たせる等の化粧効果はある程度高められるが、多量に配合すると繊維の密着性が低下し、化粧持続性が悪化する場合があった。このため、睫のボリュームアップ効果やカール効果等の化粧効果及びその化粧持続性を向上させる技術の開発が強く望まれていた。

【0004】

【課題を解決するための手段】かかる実情において、本発明者らは、鋭意研究した結果、マスカラを塗布する前に、油溶性樹脂、水性成分及び無水ケイ酸を含有するマスカラ用下地化粧料塗布した後に、従来のマスカラを塗布することにより、上記課題を解決することを見出し本発明を完成させた。

【0005】すなわち本発明は、次の成分(a)～(c)；

成分(a) 油溶性樹脂

成分(b) 水性成分

成分(c) 無水ケイ酸

を含有することを特徴とするマスカラ用下地化粧料を提供するものである。また、成分(a)を1～30質量%、成分(b)を0.1～10質量%、及び成分(c)を0.1～10質量%含有する前記マスカラ用下地化粧料、及び前記マスカラ用下地化粧料が油性型であるマスカラ用下地化粧料を提供するものである。

【0006】

【発明の実施の形態】以下、本発明を詳細に説明する。本発明に用いられる成分(a)の油溶性樹脂は、本発明のマスカラ用下地化粧料において、マスカラ塗布時の使用性及びマスカラの化粧効果を高めるものであり、通常化粧料に配合される油剤に溶解する樹脂である。具体的には、ロジン酸ペンタエリスリット等のロジン酸系樹脂、トリメチルシロキシケイ酸、アクリル変性シリコーン、酢酸ビニル系樹脂、ポリビニルイソブチルエーテル、ポリイソブチレン等が挙げられ、これらを一種又は二種以上用いることができる。これら樹脂の中でも、ロジン酸系樹脂、トリメチルシロキシケイ酸が、化粧効果及び化粧持続性の観点より、特に好ましい。

【0007】本発明のマスカラ用下地化粧料における、成分(a)の含有量は、1～30質量%(以下、単に「%」で示す。)が好ましく、5～20%が特に好ましい。含有量がこの範囲であれば、使用性及び使用感の良好なものが得られる。

【0008】本発明に用いられる成分(b)の水性成分は、本発明のマスカラ用下地化粧料において、上から塗布するマスカラの付着性を向上させるものであり、通常化粧品に配合される水性成分である。具体的には、水、グリセリン、プロピレングリコール、ジプロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、ポリエチレングリコール、親水性界面活性剤等が挙げられ、これらを一種又は二種以上用いることができる。これら水性成分の中でも、1,3-ブチレングリコールが、マスカラとのマッチングの点で特に好ましい。

【0009】本発明のマスカラ用下地化粧料における、成分(b)の含有量は、0.1～10%が好ましく、1～8%が特に好ましい。含有量がこの範囲であれば、使用性及び使用感の良好なものが得られる。

【0010】本発明に用いられる成分(c)の無水ケイ

酸は、本発明のマスカラ用下地化粧料において、睫を太くする化粧効果を高めるためのものであり、通常化粧料に配合される粉末である。本発明の成分(c)に用いられる無水ケイ酸の平均一次粒子径は、睫を太くする効果の観点より、0.005~15 μ mが好ましい。このような無水ケイ酸は、市販品として、AEROSIL200、AEROSIL300、AEROSILR972、AEROSIL380(日本アエロジル社製)、サイリシア350、サイリシア550、サイロスフェアC-1510(富士シリシア化学社製)等が挙げられる。尚、成分(c)の無水ケイ酸は、分散性や付着性を改良するため、フッ素系化合物、シリコン系化合物、金属石鹸、レシチン、水素添加レシチン、コラーゲン、炭化水素、高級脂肪酸、高級アルコール、エステル、ワックス、ロウ、界面活性剤等の一種又は二種以上を用いて表面処理を施してあっても良い。

【0011】本発明のマスカラ用下地化粧料における、成分(c)の含有量は、0.1~10%が好ましく、1~5%が特に好ましい。含有量がこの範囲であれば、使用性及び使用感の良好なものが得られる。

【0012】本発明のマスカラ用下地化粧料には、上記成分以外に、成分(a)の溶剤、分散媒、エモリエント剤等の目的で、油剤を配合することができる。本発明に用いられる油剤としては、通常化粧料に用いられる油剤であれば特に限定されず、動物油、植物油、合成油等の起源及び、固形油、半固形油、液体油、揮発性油等の性状を問わず、炭化水素類、油脂類、ロウ類、硬化油類、エステル油類、脂肪酸類、高級アルコール類、シリコン油類、フッ素系油類、ラノリン誘導体類等の油剤が挙げられる。具体的には、流動パラフィン、 α -オレフィンオリゴマー、スクワラン、ワセリン等の炭化水素類、オリーブ油、ヒマシ油、ホホバ油、ミンク油、マカデミアンナッツ油等の油脂類、ミツロウ、カルナウバワックス、キャンデリラワックス、ゲイロウ等のロウ類、セチルイソオクタネート、ミリスチン酸イソプロピル、パルミチン酸イソプロピル、ミリスチン酸オクチルドデシル、トリオクタン酸グリセリル、ジイソステアリン酸ポリグリセリル、トリスステアリン酸ジグリセリル、トリベヘン酸グリセリル、ジオクタン酸ネオペンチルグリコール、コレステロール脂肪酸エステル等のエステル類、ステアリン酸、ラウリン酸、ミリスチン酸、ベヘニン酸、イソステアリン酸、オレイン酸、12-ヒドロキシステアリン酸等の脂肪酸類、ステアリルアルコール、セチルアルコール、ラウリルアルコール、オレイルアルコール、イソステアリルアルコール、ベヘニルアルコール等の高級アルコール類、低重合度ジメチルポリシロキサン、高重合度ジメチルポリシロキサン、メチルフェニルポリシロキサン、デカメチルシクロペンタシロキサン、オクタメチルシクロテトラシロキサン、ポリエーテル変性ポリシロキサン、ポリオキシアルキレン・アルキ

ルメチルポリシロキサン・メチルポリシロキサン共重合体、アルコキシ変性ポリシロキサン、架橋型オルガノポリシロキサン、フッ素変性ポリシロキサン等のシリコン類、パーフルオロデカン、パーフルオロオクタン、パーフルオロポリエーテル等のフッ素系油剤類、ラノリン、酢酸ラノリン、ラノリン脂肪酸イソプロピル、ラノリンアルコール等のラノリン誘導体、デキストリン脂肪酸エステル、蔗糖脂肪酸エステル、デンプン脂肪酸エステル、12-ヒドロキシステアリン酸アルミニウム、ステアリン酸カルシウム等の油性ゲル化剤類等が挙げられ、これらを一種又は二種以上用いることができる。本発明のマスカラ用下地化粧料における、これら油剤の配合量は、概ね50~98.8%である。

【0013】本発明のマスカラ用下地化粧料には、本発明の効果を損なわない範囲で、必要に応じて、成分(c)以外の粉体、親油性界面活性剤、ベンゾフェノン系、PABA系、ケイ皮酸系、サリチル酸系、4-tert-butyl-4'-methoxybenzoylメタン、オキシベンゾン等の紫外線吸収剤、タンパク質、ムコ多糖、コラーゲン、エラスチン等の保湿剤、 α -トコフェロール、アスコルビン酸等の酸化防止剤、ビタミン類、消炎剤、生薬等の美容成分、パラオキシ安息香酸エステル、フェノキシエタノール等の防腐剤、水溶性高分子、香料等を適宜配合することができる。

【0014】本発明のマスカラ用下地化粧料に配合可能な成分(c)以外の粉体は、着色剤、隠蔽剤、紫外線遮断剤、メーキャップ効果の付与剤として、通常化粧用粉体として用いられている粉体であれば、球状、板状、針状等の形状、煙霧状、微粒子、顔料級等の粒子径、多孔質、無孔質等の粒子構造等により特に限定されず、無機粉体類、光輝性粉体類、有機粉体類、色素粉体類、金属粉体類、複合粉体類等が挙げられる。具体的に例示すれば、酸化チタン、酸化亜鉛、酸化セリウム、硫酸バリウム等の白色無機顔料、酸化鉄、カーボンブラック、酸化クロム、水酸化クロム、紺青、群青等の有色無機顔料、タルク、白雲母、金雲母、紅雲母、黒雲母、合成雲母、絹雲母(セリサイト)、合成セリサイト、カオリン、炭化珪素、ベントナイト、ス멕タイト、酸化アルミニウム、酸化マグネシウム、酸化ジルコニウム、酸化アンチモン、珪ソウ土、ケイ酸アルミニウム、メタケイ酸アルミニウムマグネシウム、ケイ酸カルシウム、ケイ酸バリウム、ケイ酸マグネシウム、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウム、ヒドロキシアパタイト、窒化ホウ素等の白色体質粉体、酸化チタン被覆雲母、酸化チタン被覆オキシ塩化ビスマス、酸化鉄雲母チタン、紺青処理雲母チタン、カルミン処理雲母チタン、オキシ塩化ビスマス、魚鱗箔等の光輝性粉体、ポリアミド系樹脂、ポリエチレン系樹脂、ポリアクリル系樹脂、ポリエステル系樹脂、フッ素系樹脂、セルロース系樹脂、ポリスチレン系樹脂、スチレン-アクリル共重合樹脂等のコポリマー樹脂、ポ

リプロピレン系樹脂、シリコーン樹脂、ウレタン樹脂等の有機高分子樹脂粉体、ステアリン酸亜鉛、N-アシルリジン等の有機低分子性粉体、澱粉、シルク粉末、セルロース粉末等の天然有機粉体、赤色201号、赤色202号、赤色205号、赤色226号、赤色228号、橙色203号、橙色204号、青色404号、黄色401号等の有機顔料粉体、赤色3号、赤色104号、赤色106号、橙色205号、黄色4号、黄色5号、緑色3号、青色1号等のジルコニウム、バリウム又はアルミニウムレーキ等の有機顔料粉体あるいは更にアルミニウム粉、金粉、銀粉等の金属粉体、微粒子酸化チタン被覆雲母チタン、微粒子酸化亜鉛被覆雲母チタン、硫酸バリウム被覆雲母チタン等の複合粉体、等が挙げられ、これらを一種又は二種以上を用いることができる。尚、これら粉体は、フッ素系化合物、シリコーン系化合物、金属石鹸、レシチン、水素添加レシチン、コラーゲン、炭化水素、高級脂肪酸、高級アルコール、エステル、ワックス、ロウ、界面活性剤等の一種又は二種以上を用いて表面処理を施してあっても良い。本発明のマスカラ用下地化粧料における、前記粉体の配合量は、粉体の配合目的等により異なるが、概ね0.1~30%である。

【0015】本発明のマスカラ用下地化粧料に配合可能な親油性界面活性剤は、粉体の分散剤、化粧持続性向上等の目的で配合されるものであり、通常化粧品に用いられている親油性界面活性剤であれば、何れでも良い。具体的には、グリセリン脂肪酸エステル及びそのアルキレングリコール付加物、ポリグリセリン脂肪酸エステル及びそのアルキレングリコール付加物、プロピレングリコール脂肪酸エステル及びそのアルキレングリコール付加物、ソルビタン脂肪酸エステル及びそのアルキレングリコール付加物、ソルビトールの脂肪酸エステル及びそのアルキレングリコール付加物、ポリアルキレングリコール脂肪酸エステル、蔗糖脂肪酸エステル、ポリオキシア

ルキレンアルキルエーテル、グリセリンアルキルエーテル、ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル、ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油、ラノリンのアルキレングリコール付加物、ポリオキシアルキレンアルキル共変性シリコーン、ポリエーテル変性シリコーン等が挙げられ、これらを一種又は二種以上を用いることができる。本発明のマスカラ用下地化粧料における、前記界面活性剤の配合量は、界面活性剤の配合目的により異なるが、概ね0.01~10%である。

【0016】本発明のマスカラ用下地化粧料の剤型は、水性型、油性型、乳化型等が挙げられるが、この中でも、外相が油相となる油性型が、睫を太く、長くみせ、目元を際立たせる化粧効果及びその持続性等の本発明の効果が顕著である。本発明のマスカラ用下地化粧料の形態としては、クリーム状、ゲル状、液状が挙げられるが、これらの中でもゲル状が好ましい。尚、本発明のマスカラ用下地化粧料の外観は、透明、半透明、不透明等の何れでも良い。

【0017】

【実施例】次に、実施例を挙げて本発明を更に説明するが、本発明はこれら実施例に限定されるものではない。

【0018】実施例1~7及び比較例1~3：油性型ゲル状のマスカラ用下地（半透明）

表1に示す組成のマスカラ用下地を調製し、睫に塗布し、その上から以下に示す組成のマスカラA及びBを塗布した際の、睫を太くする化粧効果（ボリューム効果）、睫を上にかールする化粧効果（カール効果）等の化粧効果、化粧持続性、マスカラの塗布しやすさ（化粧のしやすさ）、仕上がり膜の均一性について、以下の評価方法及び判定基準により評価し、結果を併せて表1に示した。尚、マスカラ用下地を使用しないで、マスカラを使用したときの評価を比較例4に示した。

【0019】

評価用マスカラA（水中油型乳化タイプ）	
（成分）	（質量%）
1. ステアリン酸	3
2. パラフィンワックス	5
3. セスキオレイン酸ソルビタン	2
4. 精製水	47
5. トリエタノールアミン	2
6. ポリアクリル酸エステルエマルジョン（固形分40%）	30
7. 黒酸化鉄	10
8. 防腐剤	1

（製法）

A. 成分（1）~（3）を混合溶解し、70℃に保温する。

B. 成分（4）~（8）を均一混合し、70℃に保温す

評価用マスカラB（水系ゲルタイプ）

（成分）	（質量%）
1. カルボキシメチルセルロース	3

る。

C. AにBを加えて、乳化する。

D. Cを容器に充填してマスカラAを得た。

2. 精製水	70
3. 水酸化ナトリウム	1
4. ポリビニルアルコール	5
5. レーヨン繊維	15
6. 黒酸化鉄	5
7. 防腐剤	1

(製法)

A. 成分(1)～(4)を均一混合する。

B. Aに成分(5)～(7)を加えて、均一分散する。

C. Bを容器に充填してマスカラBを得た。

【0020】

【表1】

(質量%)

No.	(成分)	実施例							比較例			
		1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4
1	ロジン酸ペンタエリスリット	1	10	—	10	10	10	10	—	—	10	—
2	トリメチルシロキシケイ酸	—	—	20	—	—	—	—	—	10	—	—
3	軽質流動イソパラフィン	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	—
4	セスキオレイン酸ソルビタン	0.5	0.5	0.5	0.1	0.5	0.5	0.5	0.5	—	0.5	—
5	1, 3-ブチレングリコール	3	3	3	0.5	7.5	3	3	3	—	3	—
6	デキストリン脂肪酸エステル	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	—
7	有機変性ベントナイト	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	—
8	無水ケイ酸(注1)	3	3	3	3	3	1	5	5	5	—	—
評価結果(使用マスカラA)												
a.	化粧効果(ボリューム効果)	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	△	○	×	△
b.	化粧効果(カール効果)	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	×	○	△	△
c.	化粧効果の持続	○	◎	◎	◎	○	○	◎	×	○	×	△
d.	化粧のしやすさ	◎	◎	○	○	○	◎	○	○	△	○	△
e.	仕上がり膜の均一性	◎	◎	○	○	◎	◎	○	○	×	○	△
評価結果(使用マスカラB)												
a.	化粧効果(ボリューム効果)	—	◎	—	◎	—	—	◎	△	○	×	△
b.	化粧効果(カール効果)	—	◎	—	◎	—	—	◎	×	○	△	△
c.	化粧持続性	—	◎	—	○	—	—	○	×	×	×	△
d.	化粧のしやすさ	—	◎	—	○	—	—	○	○	×	○	△
e.	仕上がり膜の均一性	—	◎	—	○	—	—	○	△	×	△	△

(注1) 商品名 AEROSIL 300 : 日本アエロジル社製

【0021】(調製法)

A. 成分(1)～(6)を混合溶解し、成分(7)～(8)を加えて三本ローラーにて、均一分散する。

B. Aを容器に充填してマスカラ用下地を得た。

【0022】(評価方法) 10名の化粧品専門パネルにより、まず上記実施例及び比較例のマスカラ用下地を睫に塗布し、その上から以下に示す組成のマスカラA及びマスカラBを塗布してもらい、その際、「化粧効果(ボリューム効果)」、「化粧効果(カール効果)等の化粧効果」、「化粧持続性」、「化粧のしやすさ」、「仕上がり仕上がり膜の均一性」の各項目について、下記絶対評価基準により評点を付け、全パネルの評点の平均点を下記判定基準に基づいて評価した。尚、「化粧持続性」については、マスカラ塗布後、パネルに通常の生活をしてもらい、12時間後の化粧効果について評価した。更に、比較例4は、今回評価に用いたマスカラA及びマスカラBをマスカラ下地を用いなくて、マスカラのみを使用してもらい同様に評価した。

〔絶対評価基準〕

(評点) : (評価)

6 : 非常に良い

5 : 良い

4 : やや良い

3 : 普通

2 : やや悪い

1 : 悪い

0 : 非常に悪い

〔判定基準〕

(判定) : (全パネルの評点の平均値)

◎ : 5点以上

○ : 4点以上5点未満

△ : 2点以上4点未満

× : 2点未満

【0023】表1の結果から明らかなように、本発明品である実施例1～7のマスカラ用下地化粧料を用いた場合は、比較例1～3に比較し、目元を際立たせる化粧効果及び化粧持続性、化粧のしやすさ、仕上がり膜の均一性の全ての点で優れた特性を有していた。一方、油溶性

樹脂を含有していない比較例1では、化粧効果（カール効果）及び化粧持続性の点で満足いくものが得られず、水性成分を含有していない比較例2では、上から塗布するマスカラの付着が悪く、仕上がり膜の均一性の点で満足いくものが得られなかった。また、無水ケイ酸を含有していない比較例3では、化粧効果（ボリューム

効果）及び化粧持続性の点で満足いくものが得られなかった。更に、本発明品である実施例1～7のマスカラ用下地化粧料を用いた場合は、マスカラ下地を用いない比較例4に比べて、何れも優れた特性を有していた。

【0024】

実施例8：油性型ゲル状のマスカラ用下地（半透明）

（成分）	（質量％）
1. アクリル変性シリコーン（注2）	1.5
2. ポリイソブチレン	1.5
3. デカメチルシクロペンタシロキサン	72.8
4. デキストリン脂肪酸エステル	5
5. シリル化処理無水ケイ酸（注3）	8
6. ポリエチレングリコール	10
7. ナイロン繊維（6デニール、1mm）	1
8. ローズマリーエキス	0.1
9. 防腐剤	0.1

（注2）商品名 KP-540：信越化学工業社製

（注3）商品名 AEROSIL R972：日本アエロジル社製

【0025】（製法）

A. 成分（1）～（4）を混合溶解する。

B. Aに成分（5）～（9）を加え、均一分散する。

C. Bを容器に充填してマスカラ用下地を得た。

実施例8のマスカラ用下地は、水性型、油性型、水中油

型、油中水型の何れのマスカラを用いた場合にも、目元を際立たせる化粧効果、化粧持続性に優れ、使用性、使用感も良好であり、化粧膜の均一性に優れたものであった。

【0026】

実施例9：油性型ゲル状のマスカラ用下地（半透明）

（成分）	（質量％）
1. ポリイソブチレン	30
2. 軽質流動イソパラフィン	54.7
3. ホホバ油	0.1
4. 有機変性ベントナイト	5
5. 無水ケイ酸（注4）	0.1
6. 精製水	10
7. 防腐剤	0.1

（注4）サイロスフェア C-1510：富士シリシア社製

【0027】（製法）

A. 成分（1）～（3）を混合溶解する。

B. Aに成分（4）～（7）を加え、均一分散する。

C. Bを容器に充填してマスカラ用下地を得た。

実施例9のマスカラ用下地は、水性型、油性型、水中油型、油中水型の何れのマスカラを用いた場合にも、目元を際立たせる化粧効果、化粧持続性に優れ、使用性、使用感も良好であり、化粧膜の均一性に優れたものであった。

【0028】

【発明の効果】以上、詳述したように、本発明のマスカラ用下地化粧料は、マスカラを塗布する前に睫に塗布し、次いでマスカラを用いた時に、より睫を太く、長く見せ、上にカールすることができ、目元を際立たせる化粧効果、化粧持続性に優れ、且つ、使用性、使用感において化粧がしやすく、仕上がり膜の均一性にも優れるものであった。

フロントページの続き

(72)発明者 萩原 宏行
東京都北区栄町48番18号 株式会社コーセー研究本部内

(72)発明者 中林 治郎
東京都北区栄町48番18号 株式会社コーセー研究本部内

F ターム(参考) 4C083 AA112 AA122 AB032 AB171
AB232 AB442 AC012 AC022
AC122 AC242 AC442 AC542
AC912 AD011 AD022 AD042
AD072 AD092 AD112 AD162
AD242 AD262 AD272 AD282
AD532 CC14 DD01 DD27
DD30 DD33 DD41 EE07 FF05